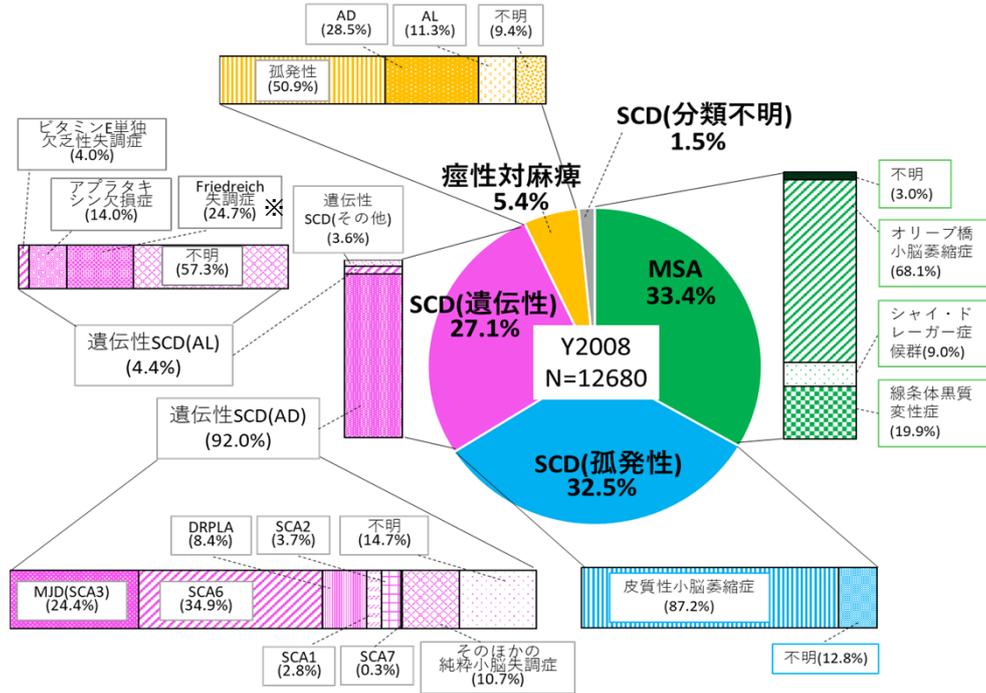


特定疾患治療研究事業により登録された 運動失調症の症例解析について

研究分担者: 金谷泰宏¹ 研究協力者: 佐藤洋子²
(1 東海大学医学部、2 防衛医科大学校)

図1 運動失調症の疫学調査

2008年に申請(新規および更新)され電子データ化された脊髄小脳変性症と多系統萎縮症の臨床個人調査票(17,010件)のうち、両疾患に共通項目でかつ主要な項目のデータがそろっている12,680件を対象に解析を行った。



※ 臨床調査個人票(2004~2008年度)の記載内容をそのまま解析していることから登録時の診断名を用いた。

表1 機械学習によるSCD解析

2008年に申請(新規および更新)され電子データ化された脊髄小脳変性症の臨床個人調査票(7,073件)のうち、データの欠落が認められなかった4,782件を機械学習させ、各10例を用いて診断一致率を比較した。とりわけ、常染色体劣性SCDのほぼ全例が、孤発性、常染色体陽性、痙性対麻痺に区分された。

専門医による 診断結果	人工知能による診断結果				
	孤発性 SCD	常染色体優性 SCD	常染色体劣性 SCD	その他 SCD	痙性 対麻痺
孤発性SCD	$n=10$	0.95 ± 0.07	0.04 ± 0.06	0.00	0.00
常染色体優性 SCD	$n=10$	0.09 ± 0.26	0.86 ± 0.30	0.01 ± 0.03	0.02 ± 0.01
常染色体劣性 SCD	$n=10$	0.30 ± 0.34	0.38 ± 0.22	0.04 ± 0.07	0.19 ± 0.23
その他SCD	$n=10$	0.34 ± 0.39	0.60 ± 0.35	0.03 ± 0.03	0.03 ± 0.02
痙性対麻痺	$n=10$	0.09 ± 0.21	0.07 ± 0.19	0.00 ± 0.03	0.83 ± 0.31